



皆様、今日はお疲れさまでした。

長崎ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM) の設立 30 周年の記念シンポジウムでご挨拶をさせて頂けることを光栄に感じております。

今日の開催にあたっては、コロナ禍ということでオンラインを併用しての開催でしたが、準備も大変だったと思います。事務局の方々はお疲れ様でした。

第一部の山下先生のご講演は、いつも思うことですが、格調高くわかりやすくご講演だったと思います。人材の育成や、NASHIM の設立の経緯から今後のことに関して、非常にわかりやすい講演を聴かせていただきました。世界の被曝医療の人材を今後育成していくことを強調されていましたので、そのことが今後の NASHIM の課題になっていくのかなと思いついておりました。

ライナー先生のご講演は、小児の甲状腺癌についてのお話でしたけれども、色々なわかりやすいデータを用いて福島の甲状腺癌の発生は、必ずしも放射線の影響ではないということをわかりやすくご解説いただき、我々としても非常に背中を押される講演だったと思います。

第二部は、4 人の有識者の皆さんと座長の上谷教授とでいろいろなことが話し合われましたけれども、ここでも私が思ったのは、国際交流と人材育成ということがキーワードではないかと思いついておりました。NASHIM は 30 年という歴史を持つ組織ですので、今後も私達の後輩を育成しながらこの事業が続けていければなど強く思う次第です。

最後になりましたけれども、本日までご参加の皆様の今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げて、私の挨拶にさせていただきます。

本日はありがとうございました。

日本赤十字社長崎原爆病院 院長 谷口英樹